

慈湖夹阻風五首

慈湖夹にて風に阻まる

紹聖元年（一〇九四）六月の作 五十九歳。この四月英州へ左遷する命が下り定州を出発し、途中の汝州で弟蘇轍に出あって別れを告げ、金陵（今の南京）を経て、六月二十五日、当塗県（安徽省）に着いたとき、惠州（広東省恵陽県）へ流す旨の命令をうけた。

其一

捍索桅竿立嘯空

捍索桅竿立つて空に嘯く

篙師酣寢浪花中

篙師酣寢す浪花の中

故應菅蒯知心腹

故より応に菅蒯心腹を知るべし

弱纜能爭萬里風

弱纜能く争ふ万里の風

【語釈】○慈湖夾：当塗県の北六十五里。揚子江の分流。○捍索：帆柱を固定するための綱。

○桅竿：ほばしら。○篙師：船頭。○酣寢：ぐっすり眠る。○菅蒯：縄を作るのに用いる草。

【解釈】綱で、しっかり左右に引かれている帆柱は、空にむかつてつたつたままうなりをたてている。船頭は、たちさわぐ浪の中でぐっすりと眠っている。

綱をなつてある水草の菅蒯は、きつと船客の心の奥底まで知りぬいているにちがいない。弱々しくみえる、ともづなが、万里を吹きぬける風と、たのもし争いを続けている。

其二

此生歸路愈茫然

此の生の歸路 愈いよ茫然たり

無數青山水拍天

無數の青山水 天を拍つ

猶有小船來賣餅

猶お小船の来つて 餅を売る有り

喜聞墟落在山前

喜び聞く 墟落の山前に在ることを

【語釈】○茫然：あてどに迷う義。○餅：ふかしばん、せんべいの類。○墟落：村落。

○山前：山のこちらがわ。

【解釈】わが生涯のうちに故郷へ帰るあては、ますます遠のいたらしい。行く手には、数知れぬ青い山々。水は天まで打ちあげている。こんなところでも、小船がこぎ寄せ、麦せんべいを売りにくる。嬉しいのは、村里があこの山のこちらに在ると聞いたことだ。